

地域の活動拠点のあり方を考えています！

- 加木屋地区では、令和4年度（2022年度）に地域の将来像「かぎや将来ビジョン」を策定し、その実現に向けて様々な活動を展開しています。
- 令和6年度（2024年度）から、地域課題の解決や活力の創出につながる取組を行うための活動拠点のあり方について検討しています。
- 令和7年度（2025年度）の第1回は6月24日（火）に開催しました。（参加者9名）
- 令和6年度（2024年度）の検討経過をまとめた「あり方検討会のまとめ」でふりかえりを行った後、各施設の最新情報の提供を踏まえ、今年度の進め方について意見交換を行いました。引き続き、地域の合意形成を積み重ねながら検討を進めます。

地域の各施設の最新情報を市から共有

項目	内容
加木屋市民館 (社会教育課)	・4月から17～21時の施設管理をシルバー人材センターに委託 ・7月11日から平日の夜間に空き室を学習スペースとして開放(中高生対象)
加木屋児童館 (こども課)	・利用者数はコロナ前の水準まで回復
加木屋敬老の家 (高齢者支援課)	・特に大きな変化はなし。地域の見守り活動などで活用

今年度の進め方について意見を交換！

- 以下、意見交換の主な内容です。

テーマ	意見・議論内容(要約)
施設整備の 方向性	・市としては、緑陽コミュニティセンター程度(約380㎡)を基準にしつつ、機能に見合う規模を検討していきたい。 ・土地利用可能となる用地も含めて新施設の図面を描いた方が良い。 ・複合施設とするなら、大きさだけでなく中身(何を充実させていくか)を検討した。 ・建てたら30～40年近く大きな改修はできないため、十分な議論が必要。
食事スペースの 必要性	・こども食堂等を継続するため、食事・調理が可能なスペースは必須。 ・食を通じた交流が地域の活性化につながっていると実感している。
児童館・敬老の家の 機能	・既存施設の利用実態を踏まえた機能配置が必要。特に児童館機能を充実させる必要があるという声が多数。 ・敬老の家の機能は、大きなスペースがあれば充足する。
新施設の 駐車場について	・緑陽コミュニティセンターでは、公共施設として駐車場が少ないという課題がある。
今後の進め方 について	・延床面積や配置、動線や駐車場がどのくらい確保できるのか、建築士に相談し、いくつかのパターンの配置図を作成いただき検討する。 (次回8/29迄に準備する) ・地域の活動拠点で何ができるのか等、ソフト面の必要な機能を検討しながら進めていきたい。

本取組に関するご質問等は下記までお問い合わせ下さい